

事業所名 多機能型事業所 運動療育センター キートスピード

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

7 月

1 日

法人（事業所）理念		くらしに作る確かな安心 ”確かな安心”・・・それぞれの分野での専門的な見解及び取り組みによって、方向性が定まり、見通しが立った状態 日々の暮らしの中にある不安や壁を、専門的な観点で解決に導くお手伝いをします							
支援方針		子どもを主体とした支援を行い、子どもがいきいきとできるような環境、支援を提供します。 子どもの「できた」こと、成長した点を保護者と共有し、感動を共感出来るよう支援を提供します。 運動療育を通じて、カラダ・アタマ・ココロを育み、日常生活や社会生活に必要な能力を身につけるサポートをしています。							
営業時間		平日	13 時	00 分	17 時	00 分	送迎実施の有無	○あり	なし
		土祝・長期休み	9 時	30 分	13 時	00 分			
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	連絡帳等を活用し、保護者様からの聞き取りやお子様の観察を通して、意思表示が困難なお子様の些細な心身の変化や平常とは異なる状態を速やかに把握し、適切な対応を行う。 視覚支援を中心とし、支援の流れの見通し立てを行い、児童一人ひとりが安心して過ごすことができるようにする。 また、来所時にリュックを片付ける、手が汚れたら綺麗に洗う等、生活に必要な基本的技能を声掛けや視覚提示を行いながら適切な時期に獲得することができるように支援する。							
	運動・感覚	有酸素運動・サーキット・ボルダリング・跳び箱など36の基本的な動きを基盤とした運動メニューを実施。目的として、姿勢や運動(粗大・微細運動)・動作の基本的技能の向上、身体能力の向上、保有する感覚の活用を図る。特に、視覚や触覚、固有覚や前庭覚等の感覚は、ブランコなどの遊具を通し、揺れ楽しみながら体験することで、感覚の活用や調整や情緒面の安定を図ることができるように支援する。個別課題でもシールや箸トシなど微細運動への支援を行う。またいずれの運動機能においても、段階的に身につけられるよう個々人に適したプログラムを策定し支援を行う。							
	認知・行動	アセスメントを取ったり児童の様子や状況を確認しながら児童一人ひとりの認知面における特性を理解し、本人にとって無理なく情報や刺激を処理することができるような環境を整える等の支援を行う。様々な遊びや活動を体験し、認知や知覚、それらを踏まえた行動の手がかりとなる概念について、楽しみながら獲得できるように工夫し支援を行う。 集団でのルールや行動を学び、その中から集団で過ごすための情緒の安定を学べるよう、スタッフからの声掛けなどの支援を行う。また活動において成功体験だけでなく失敗体験も積ませることで、失敗に対して対応できるより柔軟なところを身につけられるよう支援を行う。 指導員を固定化せず様々な指導員が関わることで、般化することができるようにする。							
	言語 コミュニケーション	相手と同じものに注意を向けたり、相手の行動や意図を推測・理解しようとする等の共同注意の獲得等も含め、一人ひとりの発達段階や興味関心に合わせてコミュニケーション能力の芽生えから向上のために支援を行う。また、児童自身の指さしやジェスチャー等を丁寧に受け止めて意思を推察し、多様なコミュニケーション手段を用いて双方向的やり取りを行うことができるようにする。必要に応じて玩具等を写真などで視覚化し、指差しで意思表出ができる環境も設定し、感情や体験、物と言葉の意味を結びつけることで、体系的な言語を身につけることができるように支援する。							
	人間関係 社会性	児童が安心して取り組むことができる環境下で、人や環境に対する愛着の形成・安定が行えるように支援する。児童のペースを大切にしながら遊びを通して他者に興味・関心を持つことができるように関わっていく。具体的な支援として、種々の活動は集団で行い、他の児童とのコミュニケーションを取れるような環境を準備し、その上でスタッフが介入しながら、人間関係の取り方などを学べるようにする。色々な活動を通して、好きなことや嫌いなこと、得手不得手、興味関心や感情のコントロール等を学んだり体験したりして、自己理解に繋がるように支援を行う。また遊びの中にスタッフが適宜介入しながら、適切な人間関係が学べるよう支援を行う。							
家族支援		保護者様の子育てに関する悩みなどに関して、事業所での様子などの情報交換と、それらを踏まえたうえでの助言・相談を行う。				移行支援		ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備としての支援を行う。主にコミュニケーションへの支援を、集団での活動を通して支援をし、より多くの人と関わる事が出来るよう支援を行う。	
地域支援・地域連携		将来的に子どもたちが地域で生活する上で、より生きやすい社会を作ることを目標とした包括的な支援を行う。そのために医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携、個別のケース検討のための会議への出席等を適宜行う。				職員の質の向上		必要に応じて公的な外部研修に参加し、それらの内容を社内のスタッフに伝達する社内研修を併用しながら、スタッフの知識と技術の向上を図る。	
主な行事等		季節の移り変わりを感じられるように、各季節に沿ったイベントを開催する。例として、夏祭り、季節ごとの制作物など。単一の事業所だけでなく、可能な限り複数の事業所で協力して開催し、あまり接することのない利用者同士の関わりが持てる機会を用意する。							